

2024 年度

農村計画学会秋期大会 プログラム

2024 年 11 月 30 日 - 12 月 1 日

会場：神戸大学

農村計画学会

THE ASSOCIATION OF RURAL PLANNING

目 次

1.	プログラム	1
2.	会場案内.....	4
3.	開催校からのご案内	6
(1)	昼食について	6
(2)	休憩室について	6
(3)	懇親会について	6
4.	学会表彰受賞者記念講演	7
5.	企画セッションの概要.....	9
(1)	企画セッションⅠ	9
(2)	企画セッションⅡ	10
(3)	企画セッションⅢ.....	11

1. プログラム

2024年度農村計画学会全国大会（秋期大会）プログラム

1日目 11月30日（土）：オーラルセッション、企画セッション
1 課題あたり20分（発表14分、質疑5分、質疑替え1分）

第1会場（C101）		第2会場（B204）		第3会場（B304）	
10:00	開会式				
10:15		休憩			
10:30	<p><1-1 居場所、コミュニティの形成> コーディネーター：牧山正男（茨城大学）</p> <p>1-1-1 マルシェを契機とした新たなコミュニティ形成 —明日香とオマルシェを対象として— 岩本重里沙（同志社女子大学大学院）他1名②</p> <p>1-1-2 一村一小中学校地域における子ども食堂が持つ効果に関する研究 —徳島県佐那河内村「ボスガネウボラ」を事例に— 笹田真帆（徳島大学）他1名②</p> <p>1-1-3 中高生のサードブレイスの評価手法に関する研究 村元義樹（株式会社フェューチャリンクネットワーク）他1名②</p> <p>1-1-4 農山村において移住者の人的ネットワークはどう構築されたか？ —北海道下川町の事例— 黒田峻平（北海道大学）②</p>	<p><1-2 拠点と地域連携> コーディネーター：大石卓史（近畿大学）</p> <p>1-2-1 幼少期の農林漁業・自然体験と農山漁村地域における観光コンテンツの選好 大学 寛和（農研機構）② 亀倉花（弘前大学大学院）他1名②</p> <p>1-2-2 宿泊施設・地域の魅力と地域アリアン獲得 —青森県内の宿泊施設宿泊者を対象として— 亀倉花（弘前大学大学院）他1名②</p> <p>1-2-3 過疎地域の観光まちづくりにおける寺院と住民活動団体の関係と行動原理 —高知県四万十町の岩本寺を事例として— 原田弘之（大阪成蹊大学）他1名②</p> <p>1-2-4 高校と地域の連携は地域になにをもたらすか —連携を支撐するコーディネーターと学外関係者の経験から— 神志穂（北海道大学大学院）他1名②</p>	<p><1-3 環境管理活動> コーディネーター：新田将之（愛媛大学）</p> <p>1-3-1 都市農地保全意向の分析 —農地景観評価と「こくべじ」の購入動向の影響— 岡本ありさ（東北大学大学院）他1名②</p> <p>1-3-2 自然の関係的価値の水平移動評価 —文脈をまたいだ関係的価値の共有可能性— 齋藤智美（東京大学大学院）②</p> <p>1-3-3 里山保全活動団体の持続可能性に関する要因探索 包薩日娜（国立環境研究所）他3名②</p> <p>1-3-4 農業生産現場における食品ロスの実態把握 宇野遊（同志社女子大学大学院）他1名②</p>		
11:50	休憩				
13:00	<p><2-1 自治体による地域支援施策> コーディネーター：山下良平（石川県立大学）</p> <p>2-1-1 自治体担当課による地域コミュニティ活動のフォローアップと施策立案に関する研究 —都市的地域と農村地域とが合併した自治体を対象として— 吉岡誠生（筑波大学）他1名②</p> <p>2-1-2 半農半X実践者に対する都道府県の支援に関する研究 萩野直夫（岡山大学大学院）他1名②</p> <p>2-1-3 若手コーディネーターと住民リーダーの成長を内包する地域運営組織設立支援のモデル化 —大分県竹田市明治地区を事例として— 安部梨杏（神戸大学大学院）他1名①</p> <p>2-1-4 特定地域づくり事業協同組合の体験型マッチング機能としての活用可能性に関する研究 —奈良県わかみワークを事例に— 大橋了輔（徳島大学）他1名②</p>				<p>第4会場（B101）</p> <p>12:00 <企画セッションI> 企画委員会 次世代による地域の“決断”ワークショップ</p> <p>13:30</p>
14:20	<p>■ 顧問会議</p> <p>11月30日（土）12:00～13:00、第2会場（B204）</p> <p>■ 理事会・評議員会</p> <p>12月1日（日）12:30～13:30、第4会場（B101）</p> <p>■ 閉会式</p> <p>12月1日（日）14:55～15:00、第1会場（C101）</p>				

11月30日(土)：オーラルセッション
1 課題あたり20分(発表14分、質疑5分、入れ替え1分)

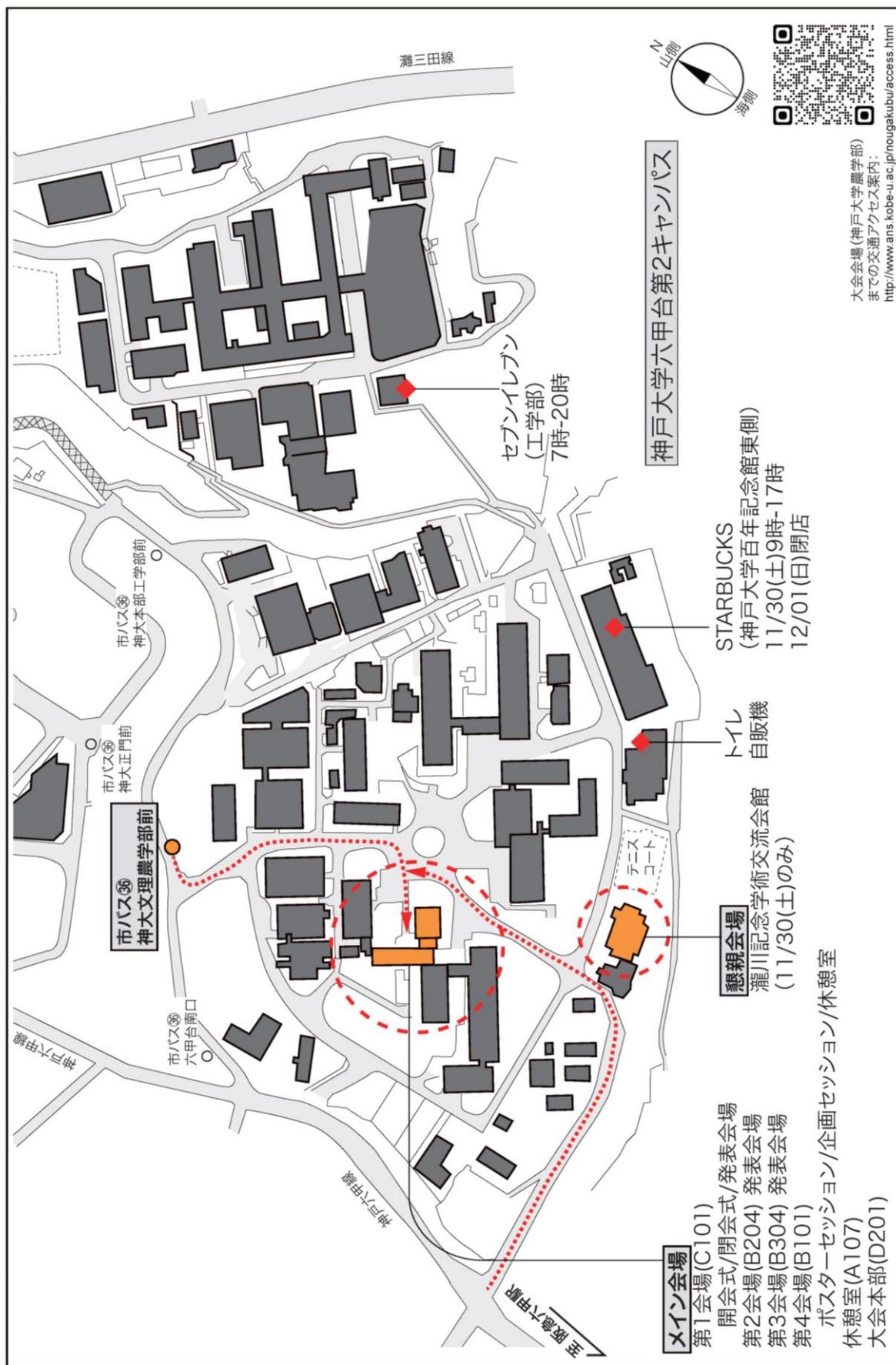
発表区分①：2023 年秋～2024 年秋に農村計画学会論文集に採用済み、発表区分②：学術的価値がある研究等で未発表のもの

第1会場 (C101)		第2会場 (B204)		第3会場 (B304)				
休憩								
14:30	<p><3-1 状況変化への適用(過疎と災害)> コーディネーター：柴田祐(熊本県立大学)</p> <p>3-1-1 他出者が町内会長を担いける町内会の役員体制と意識 —京都市右京区北中江町を事例として— 小林 悠平(神戸大学大学院) 他1名①</p> <p>3-1-2 他出子が抱く出身地域に対するコミュニティ意識の分析 —鳥取県日野町を事例に— 法理 樹里(農林水産政策研究所) 他5名②</p> <p>3-1-3 災害に伴う孤立地域の対応と地域コミュニティの役割 —熊本県球磨村三ヶ浦地区を事例として— 藤島 璃音(神戸大学) 他2名②</p> <p>3-1-4 令和6年能登半島地震における公立小中学校の再興過程の記録と考察 —能登6市町を対象とした被災後10か月時点の学校移動実態と学校集約に関する東日本大震災との比較— 山崎 真美子(東京科学大学) 他1名②</p>	<p><3-2 再生可能エネルギーの普及と地域> コーディネーター：上野裕士(内外エンジニアリング)</p> <p>3-2-1 色彩調和概念に基づく営農型太陽光発電の配色に対する景観評価構造 横山 采佳(三井物産フォレスト株式会社) 他2名②</p> <p>3-2-2 農地における規模別の太陽光パネル設置要因の分析 石井 裕樹(筑波大学) 他1名②</p> <p>3-2-3 小水力発電の復活事業において旧発電所の存在が果たす役割 中尾 京子(早稲田大学大学院) 他1名②</p>	<p><3-3 ICTと地域管理> コーディネーター：長野 手規(神戸大学)</p> <p>3-3-1 Sentinel-2衛星データによる圃場の排水性評価指標 /NDVIと小麦収量との関係 —三重県鈴鹿市の小変作の水田輪換畑における事例— 篠原 健吾(農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門) 他1名②</p> <p>3-3-2 住民主体の農地・地域資源管理システムの構築の可能性と課題 新田 直人(持続可能な地域社会総合研究所) 他5名②</p> <p>3-3-3 インターネットが普及する国内農村地域における住民の生活課題解決に関する研究 田中 初(京都大学大学院) 他1名②</p> <p>3-3-4 スマート農業政策に関する議会議論の傾向 —多科学技術至上主義に着目したテキスト分析を通じて— 西村 直人(京都大学) 他2名①</p>	<p>休憩</p>	<p><4-1 コミュニティへの定着と主体性> コーディネーター：田口 太郎(徳島大学)</p> <p>4-1-1 漁村女性はいかに地域に根付くのか —宮崎県北浦町の子育て世代女性を対象として— 井上 果子(宮崎大学) 他1名②</p> <p>4-1-2 農村版心理的資本からみたら被災地の未来志向 —令和6年能登半島地震被災地の調査結果から— 藤井 善仁(武蔵川女子大学) 他1名②</p> <p>4-1-3 地域おこし協力隊の任期終了後の定住率と進路及び地域特性との関連分析 —全国の自治体データを対象として— 小林 正英(筑波大学) 他1名②</p> <p>4-1-4 上越市三和区におけるため池の管理・活用及び住民意識 大澤 啓志(日本大学) 他1名②</p>	<p>休憩</p>	<p><4-2 土地利用と政策> コーディネーター：菊池 義浩(仙台高専)</p> <p>4-2-1 EPI(環境政策統合)の理念に基づくスコットランドの土地利用戦略 —脱炭素と土地の多機能的利用— 板橋 千明(早稲田大学大学院) 他1名②</p> <p>4-2-2 2050年荒廃農地の将来予測と自治体統計データとの検証 黄 琬惠(東京大学大学院) 他1名②</p> <p>4-2-3 集落空間に影響を与える農村政策の変遷 平形 和世(農林水産省農林水産政策研究所) 他1名②</p>	<p><4-3 生物多様性と鳥獣害> コーディネーター：一ノ瀬 友博(慶應義塾大学)</p> <p>4-3-1 希少野生動物との共生を目指した農村地域づくり —台湾新北市金山区におけるソデグロヅル飛来の事例— 岸岡 智也(弘前大学) 他1名②</p> <p>4-3-2 農地における生物多様性保全に取り組む活動組織の特徴 —多面的機能支払交付金の全国データを用いた分析から— 藤田 卓(公益財団法人日本自然保護協会) 他5名①</p> <p>4-3-3 盛岡市におけるカラスのロードキル多発地点の立地条件 —特に高速道路に着目して— 佐藤 留一(岩手大学大学院) 他3名②</p> <p>4-3-4 放置竹林材を用いたセルフレビルド可能な獣害防除ハウスの建設とその地域活性化効果に関する研究 時任 美乃理(京都大学大学院) 他2名②</p>
15:50	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩			
16:00	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩			
17:20	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩			

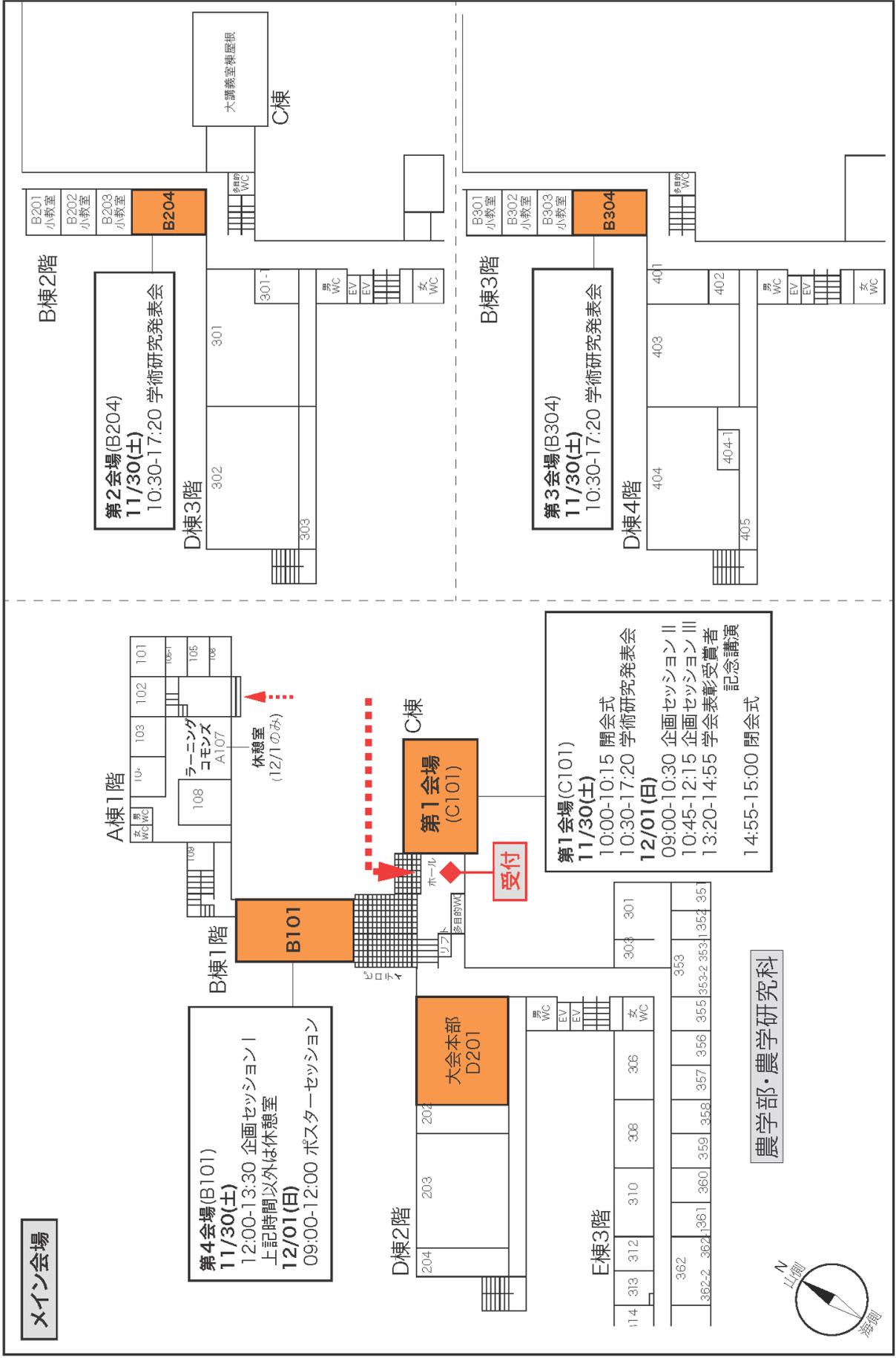
第1会場 (C101)		第4会場 (B101)		
09:00	<p><企画セッションII> 09:00~10:30 脱炭素特別委員会 「複層的空間利用」から農山村の脱炭素化と持続可能性を考える</p>	<p><ポスターセッション/コアタイム1> 09:00~09:50 P1-01 東日本大震災からの復興に取り組み地域と大学の連携に対するステークホルダーの評価 —「復興知」事業の関係者ならびに高校生を対象としたアンケート調査に基づいて— 大石 卓史 (近畿大学大学院) 他 4名 ② P1-02 2024年能登半島地震・豪雨による白米千枚田の被害と農地復旧への支援 内川 義行 (信州大学) 他 1名 ② P1-03 2024年能登半島地震および能登半島豪雨による輪島市の被災状況と今後の災害リスクの低減に向けて —白米千枚田における緊急調査— 一ノ瀬 友博 (慶應義塾大学) 他 4名 ② P1-04 農村計画学会災害対応委員会の能登半島地震に対する取り組みについて 柴田 祐 (熊本県立大学) 他 8名 ② P1-05 能登半島地震における新潟市の被害と再建に向けた動き 鈴木 孝男 (新潟県立農業大学) ② P1-06 住民自治組織が災害復興にもたらす影響に関する研究 竹崎 有麻 (熊本県立大学) 他 1名 ②</p>	<p>P1-07 令和6年能登半島地震における輪島市内孤立集落の空間分布 竹中 敬雄 (石川県立大学) 他 1名 ② P1-08 生物多様性地域戦略はモニタリング可能か? —国家戦略2023-2030における状態目標,行動目標と対応した分析— 石黒 平 (東京大学) 他 2名 ② P1-09 ドローンを活用した特定外来生物ナガエツノゲイトウの発生モニタリングの可能性 栗田 英治 (農研機構 農村工学研究部門) 他 4名 ② P1-10 特定生産緑地 2032年問題の解決に向けた「援農まちづくり活動」に関する考察 —東京都練馬区におけるグループ援農によるまちづくり活動支援を通して— 山口 忠志 (公益財団法人 練馬区環境まちづくり公社 みどりのまちづくりセンター) ② P1-11 RTK-GNSSによる1日の耕うん作業を対象とした作業時間の実態分析 吉村 亜希子 (農研機構 農村工学研究部門) 他 5名 ② P1-12 台湾観光農場における COVID-19 への対応 藤崎 浩幸 (弘前大学) 他 1名 ②</p>	<p>発表区分②:学術的価値がある研究等で未発表のもの</p>
10:30	<p>10:45</p>	<p>休憩</p>	<p>休憩</p>	
10:45	<p><企画セッションIII> 10:45~12:15 ため池みらい研究所 新たな大学・地域連携活動の形とその可能性 —「ため池みらい研究所」の仕組みと実践を通して—</p>	<p><ポスターセッション/コアタイム2> 10:45~11:30 P2-01 大学・地域連携の一方策としてのCSA (Community Supported Agriculture) の実践に対する大学関係者の評価 —近畿大学農学部と奈良県葛城村による「そのわ CSA」の取り組みを対象として— 田原 ほん花 (近畿大学大学院) 他 3名 ② P2-02 棚田を利用した流域治水に関する基礎的研究 松田 明子 (鹿児島大学) 他 1名 ② P2-03 地方都市近郊農村の郊外化と山林管理の変容過程に関する研究 —宮崎市鏡洲地区を事例として— 小森 玲於奈 (宮崎大学) 他 1名 ② P2-04 心理的要素が集落活動の継続意思に及ぼす影響の解明 —有機統合理論と心理的資本を活用して— 岡野 こゆう (東京農工大学大学院) 他 2名 ② P2-05 福島県飯館村の集落営農による営農再開 齋藤 朱未 (同志社女子大学) ②</p>	<p>P2-06 ふるさと納税返礼品としての環境配慮米の寄付額形成に与える要因の分析 楊 育菁 (早稲田大学大学院) 他 1名 ② P2-07 離島振興におけるグリーン・ツーリズムの役割と今後の発展 —新潟県粟島浦村を事例に— 王 イ雪 (新潟県立農業大学) 他 1名 ② P2-08 農村計画におけるプロセス研究の深化にむけた定性的分析手法の比較考察 —TEAとMGTAによる同一データの分析— 内野 僚太 (東京農工大学) 他 2名 ② P2-09 集落機能の量的・質的变化による集落の立ち位置を判断する評価軸の検討 山道 未貴 (熊本県立大学) 他 1名 ② P2-10 小水力発電所の近接性が共有資源管理に与える影響 —富山県農業集落を対象としたハネルデータ分析— 田中 桃花 (東京大学) 他 1名 ② P2-11 地域産材を活用した熱供給事業における支援組織の役割 —ステークホルダー間の連携体制構築に着目して— 廣川 詩織 (早稲田大学大学院) 他 1名 ②</p>	<p>※ポスターセッションは 12:00 終了</p>
12:15	<p>13:20</p>	<p>12:00~12:20にポスター撤去 理事会・評議員会 12:30~13:10</p>	<p>12:00~12:20にポスター撤去 理事会・評議員会 12:30~13:10</p>	
14:55	<p><記念講演></p>			
15:00	<p>閉会式</p>			

2. 会場案内

2024年度農村計画学会全国大会(秋期大会)会場案内図



2024年度農村計画学会全国大会(秋期大会)会場案内図



3. 開催校からのご案内

(1) 昼食について

学校周辺には飲食店はありませんので、基本にご持参ください。最寄りの飲食店は阪急六甲周辺となります。

構内には徒歩5～10分の場所に、スターバックスとセブンイレブンがございます。

表 構内店舗の開店時間

月 日	セブンイレブン	スターバックス
11月30日(土)	7:00～20:00	9:00～17:00
12月1日(日)	7:00～20:00	休業

※なお、六甲台キャンパス、神大正門前バス停横の社会科学系アカデミア館内の学食（BELL BOX カフェテリア）も11:30-13:00営業しておりますが、往復30分弱必要ですのでご注意ください。

(2) 休憩室について

持参弁当等、以下の部屋で飲食可能です。ご自由にご利用ください。

表 休憩室の場所

月 日	休憩室の場所
11月30日(土)	第4会場(B101) *ただし企画セッション開催時間は除く 昼食は、第1会場(C101)でおとりください。
12月1日(日)	昼食は、第1会場(C101)でお取りください。 休憩用の教室は用意していませんので、A棟ラーニングコモンズを利用 ください。

(3) 懇親会について

懇親会を次のとおり開催します。

日時：11月30日(土) 17:45～19:45 (受付開始 17:15～)

場所：瀧川記念会館

料金：事前申込み制 (当日参加費 一般 6,000円, 学生 3,000円)

4. 学会表彰受賞者記念講演

1. 日時：2024年12月1日（日） 13時20分～14時55分

2. 主催：表彰委員会

3. 受賞者：

(1) 大賞

青柳みどり（国立環境研究所）

「リスクガバナンスの観点から見た世論の形成と社会のあり方に関する研究」

主業績

青柳みどり（2015）第5章環境政策とメディアの役割，（鷺田豊明，青柳みどり

（編）（2015）環境を担う人と組織，岩波書店，p101-114（シリーズ環境政策の新地平
第8巻）

Aoyagi, M., Eiko Suda, and Tomomi Shinada (2011) Including Women in Climate Change
Adaptation, in Armin Bauer ed., The Environment s of the Poor, vol.1, Conceptual issues for
Triple wins for the environment, climate and Poverty Reduction. Oxford University Press, Oxford

(2) 学術賞

中島正裕（東京農工大学）

「持続的な地域資源管理とコミュニティ形成に資する農村計画論的研究」

主業績

中島正裕（2022）「新しい地域資源利用・管理をつくる」。（小田切徳美編，「新しい地域をつくる-
持続的農村発展論-」）第6章，pp 105-124），岩波書店

中島正裕，塩田 光，蒲原 優（2018）仮設住宅団地における住民活動と自治会運営の経年的分析
一東日本大震災発生後の宮城県石巻市を事例に一，農村計画学会誌，37 巻 3 号，pp.294-303.

山下良平（石川県立大学）

「担い手の変遷が示唆する地域資源管理の課題と将来展望に関する研究」

主業績

Ryohei Yamashita, 2021, Saving tradition in Japan: A case study of local opinions regarding urban
university students' participation in rural festivals, Asia-Pacific Journal of Regional Science, 5, 125-
147.

(3) 奨励賞

吉田真悟（農林水産政策研究所）

「都市と都市近郊地域における事業多角化と経営人材育成を通じた農業振興に関する研究」

主業績

吉田真悟・八木洋憲（2022）：都市農業経営による生産緑地の貸借条件と利用実態，農村計画学会
論文集，2（1），44-53.

吉田真悟・八木洋憲（2019）：新規就農者に対するマーケティング支援事業の役割-新規事業創出と東京都チャレンジ農業支援事業活用のプロセス-, 農村計画学会誌, 38 (3), 397-404.

(4) 優秀発表賞

*大会当日に発表予定

5. 企画セッションの概要

(1) 企画セッション I

次世代による地域の“決断”ワークショップ

(趣旨)

農山村地域では、人口減少、少子高齢化が進み、地域を維持することが困難になりつつある地域が散見される。長年にわたり培われてきた地域の仕組みや慣習は人口の減少とともに機能不全となり、暮らし方や価値観が多様化する今日の社会では継続が困難になっている地域が少なくない。農山村地域の持続性を図るため、私たちは従来の仕組みや慣習を再考し、修正、廃止、再構築など様々なことを決断しなければならない現実に直面しているといえる。

そこで、本ワークショップでは、参加者に農山村地域の住民になりきってもらい（ロールプレイ方式）、地域が直面している様々な場面において、どう考え、決断し、行動するかを考えてもらう（農山村の問題を“自分ごと化”してもらう）。学生や若手研究者にとっては、今後の研究課題を考える際のヒントとなり、かつ現場に行った際のコミュニケーションの素材となりうる。また、実践者やまちづくりに関わる企業や行政の職員の方々にとっては、自身の活動や業務にいかせるアイデアを得られる場（共同研究も含む）となりうる。それぞれ立場の異なる若手同士のネットワーキングの場となることも想定している。

(ワークショップ対象者)

学生、若手研究者、現場の実践者、まちづくりに関わる企業や行政の職員など

*事前に申し込みを受けた20名程度の参加者によるワークショップ形式による実施

(代表者)

中島正裕（東京農工大学） *企画委員会

(2) 企画セッションII

「複層的空間利用」から農山村の脱炭素化と持続可能性を考える

(趣旨)

農山村は、脱炭素化推進が求められるなか、豊富に存在する土地・水等の地域資源を活かすことにより、再生可能エネルギーの供給基地となるとともに、自らも化石資源に依存しない持続可能性の高い地域となることが期待されている。先の地域を形成する方法の一つには、地面から空中に至る垂直方向に脱炭素化推進に係る様々な利用を組み合わせることで土地利用の生産性を高める「複層的空間利用」が挙げられる。本企画セッションでは、複層的空間利用に相当する取り組みの現状や実装に向けて留意すべき論点（例：法律上の問題点等）の報告と、それを踏まえた議論を通じて、農山村における複層的空間利用の在り方を考える。

(登壇者)

野津 喬（早稲田大学）

上野裕士（内外エンジニアリング株式会社）

奥田進一（拓殖大学）

左村 公（パシフィックコンサルタンツ株式会社）

本田恭子（岡山大学）

森本英嗣（三重大学）

渡辺貴史（長崎大学）

(代表者)

上野 裕士（内外エンジニアリング株式会社） ＊脱炭素特別委員会

(3) 企画セッションⅢ

新たな大学・地域連携活動の形とその可能性

－「ため池みらい研究所」の仕組みと実践を通して－

(趣旨)

研究者や市民が立ち上げた「市民研究所」が、大学と行政の連携活動をコーディネートする、という新しい大学・地域連携活動の仕組みとそこで展開されるプロジェクトについて報告する。具体的には行政（兵庫県東播磨県民局）と大学（神戸大学、兵庫県立大学、京都大学）と連携協定を締結し、兵庫県加古川市にて活動を展開する「(一社)ため池みらい研究所」に着目する。その上で、大学・地域連携の構造とそこで展開される活動・アウトプットの関係性について議論する。

(登壇者)

座長改題：星野敏（京都大学名誉教授／(一社)ため池みらい研究所）

第1報告：「市民研究所を核とした大学地域連携の特徴」

柴崎浩平（兵庫県立大学／(一社)ため池みらい研究所）

第2報告：「大学生を対象とした地域との協働プロジェクトの実践と展望」

山田真輝（(一社)ため池みらい研究所）

第3報告：「草刈りを通じた都市農村交流の実践と展望」

洵 規士（(一社)ため池みらい研究所）

第4報告：「大学地域連携の推進に当たっての行政課題と展望」

森脇 馨（兵庫県東播磨県民局）

コメンテーター：内平隆之（兵庫県立大学）

(代表者)

柴崎浩平（兵庫県立大学／(一社)ため池みらい研究所）